

春をまちながら

真光寺川を清流にする会 世話人 山口拓郎

冬ごりの季節である。岸辺の草むらも枯れ蕭条とした風景である。鴨のファミリーは日だまりに寄り添い丸くなっている。水面を透かし目を凝らすと鯉達は水底にじっと張り付いて動かない。しかしさらさらと流れる川の流れは春の気配を秘めている。春の訪れが待たれる日々である。

12月5日(木)

下水道部の森川係長と守田主任が見える。上流の観泉寺周辺の改修工事の計画があるという。ついでに周辺の方々の意見を極力取り入れて進めたいとのこと。アンケートの原案を見せてもらった。「里親通信」にいて回答をとることを約束する。小学校6校を紹介する。

12月8日(日)

清掃作業日。
ゴミが目立ってきた。水は冷たいが清掃作業をする予定だった。明け方から降り始めた雨は雪に変わってきた。午前7時、高橋さんと相談して中止とした。急遽手分けして会員に連絡する。昼から能ヶ谷いこい会館において「里親通信」とアンケートの発送作業をする。

12月13日(金)

真光寺川のことについて話してほしいと真光寺中の吉岡先生から依頼があった。対象は1年生80名。喜んで伺うことにする。加藤校長が校門まで出迎えて頂いたのには恐縮した。校長室で歓談しているところへ2年生の榎本さんが顔をだす。前年課外学習で開戸親水まで一緒に歩いたことがあった。真光寺川を歩いているという。図書室の床にじかに座っての学習。質問も沢山あってあつという間の1時半だった。校長先生から「めだか基金」へ多額の寄付を頂く。

1月10日(日)

新しい年が巡ってきた。今年も新しい展開がありそうで希望がふくらむ。
1月の活動日は水が冷たいので午前能ヶ谷いこい会館で「エコゾーリ」を作り、昼

から「中華暖中」で新年懇親会を予定していた。しかしゴミが目立ってきた。急遽、「エコゾーリ作り」と平行して清掃作業をすることになった。幸い快晴、暖かい。浅瀬のゴミを拾う。自転車も2台。結構な量になる。少々冷たかったが気分爽快。11時過ぎ、中村さんをお願いしていた「エコゾーリ」に合流。古いティーシャツのリサイクル。上履きとして履き心地が上々と好評である。それぞれ傑作を物してご機嫌だった。
「中華暖中」での新年懇親会、夢が拡がりニギヤカだった。

1月23日(木)

夕方、鶴三小の横山先生が見える。担任の6年生のクラスはこの1年川での課外学習を重ねてきた。3月上旬清流会のメンバー



の力を借りて総仕上げをしたいとのこと。昨年もそうだった。終わって学校給食をご馳走になりながら荒井校長先生の前任地三宅島でのお話を伺ったのを思い出す。昨年の6年生は記念にベニヤ板で作った真光寺川のマップを残して卒業していった。

1月 某日

高橋さんから「めだか基金ポスト」が荒らされたと連絡がある。これまでもポストが破られることが幾度かあった。その度「封印」を厳にしたり、鎖を巻いたり対策を講じてきた。心ない者の出来心と見過ごしてきた。今回は全ポスト6個が根こそぎ狙われたよう。複数の犯人によるものようだ。何よりも心痛むのは折角の善意が踏みじられることだ。中には毎月決まってかなりの額を入れて下さる方もいる。昨今の人心の荒廃を映しているのであろうか。悲しいことである。ポストの上に「現金は入れない下さい」と赤い文字が記された。

2月9日(日)

下水道部との意見交換会をお願いした。以前からの会員の希望であった。9時半、能ヶ谷いこい会館へ清水課長、守田主任、潮崎さんが見える。会員は30名余り出席、椅子が足りなくなった。「めだか基金」へと硬貨の一杯入ったビニールの袋を頂く。1円玉、5円玉、10円玉 詰まりずしりと重い。後で高橋さんが勘定したら5000円近くあったそうだ。オフィス内で募ったものらしい。懇談は和気藹々の中にも真剣に意見が交換された。市民、行政という立場を離れて共通の立場で話し合えたことは嬉しかった。概要を要約すると・・・

1 上流の観泉寺周辺の改修工事について

(行政) まだ設計の段階であるが周辺の住民、学校意見を極力反映して行きたいアンケートをお願いしたのもその一環である。

(地元) 川に降りれるよう親水性を工夫してほしい

(鶴四小平野先生、和光鶴小大川先生)

あの辺りは自然が残された貴重な場所



である。子ども達の学習のフィールドとなっている。

(行政) 余りいじりちらさないで自然が多く残されるよう考えていきたい。

町田の他の地域でコンクリート3面張りを避けるため「水循環型」の工法を取り入れた例もある。

2 源流の保全について

(地元) 幾つかある内の一つに何とか保全したい箇所があるがその手だてではないものだろうか。

3 管理の一元化について

(行政) 真光寺川は上流、中流、下流と管轄が分断されている。また同じ箇所でも下水道部、公園緑地部、農政部と縦割りになっている。市民から見ると窓口が一元化される方向に改善していくことが望ましいと考えている。

4 パートナースHIPについて

(行政) 予算的にも逼迫してきている。河川の改修費を捻出するのも容易でない実情である。その他に多額の保全費を要する。地元の協力なしには運営できない趨勢にある。協力をお願いしたい。

(地元) 協力するに吝かでない。具体的に何ができるか明示してほしい。

(行政) 一例を挙げるとノリ面の草刈りである。

活発な意見交換がなされ相互の理解は深まるのは収穫だった。

午後からは源流探索を実施した。